

首都圏増田会だより

30
2015.6

11月15日(日)は首都圏増田会へ。

増田会
方言丸出し
涙する。
11月15日(日)
首都圏増田会で
会いましょう。

ふれあい農園(小栗山)



首都圏増田会会長

【真人出身】

佐藤 章

今、ふる里増田は元気である。ご承知のとおり重厚な造りの商家が立ち並ぶ中七日町通りが、全国で100強程しかない重要伝統的建造物群保存地区に一昨年選定されてから客足が伸び、昨年7万人程が訪れたとのことであり、何か誇らしい。

私たちは様々な思いを胸に秘め、そうした古里を後にして上京。それぞれがそれこそ額に汗し、ひたむきに勤勉に、そして実直に、どの分野においても、裏表無く律儀にキツチリと事をなし、たとえ陽が当たらなくともそれぞれが良いものを仕上げるという気構えで頑張り、現在に至っている訳である。

増田という故郷を同じにした会員皆さんの「親睦と融和」を目的として発足した首都圏増田会も、早いもので30年という節目の年を迎えることとなった。会の充実発展のため、ご尽力いただいた歴代の会長をはじめ、各役員の方々に對し改めて衷心よりお礼申し上げる次第である。

さて、今年は未(ひつじ)年。未来の発展と成長を促す乙(きのと)と安泰を表す未年が重なる60年に一度という、まことに縁起の佳い年のようにある。

こうした時に節目の年を迎えることは、たまたまなことであつても何か僥倖なことではある。

会の更なる発展を心から望まずにはいられない。心では私ばかりではあるまいと思っているが、年のせいかな々物忘れが多くなつた。「名前がなかなか出てこない」「漢字を思い出せない」「これを「アラ?現象」というのだそうだが、この頃甚だしい。

しかし、昔のこととなると不思議と鮮明に思い出す。公園での花見、川や沼での雑魚捕り、祭りでの出来事、雪と格闘したこと等々である。

また、ふるさとの四季を思い出す度、言い得て妙な言葉として浮かぶのが、春の「山笑う」、夏の「山したたる」、秋「山装う」、冬「山眠る」である。改めて、ふる里との連携を切に思う。

会員各位の支援をいただき、尚一層活発な活動を展開して参りたいものと考えていますので、30周年である今年、今まで以上のご協力を特にお願いしたい。

ふるさとツアー増田会に参加して、増田町の内蔵などの旧跡名所に思いを寄せて



首都圏増田会副会長

【滝ノ下出身】

高橋 栄次郎

増田町は横手盆地の南東部に位置し、西に十文字町・湯沢市、北に平鹿町、東に山内村、成瀬側と皆瀬川の両川が横手盆地に注ぐ谷口地帯に発達した町で、奥羽本線十文字駅下車、おおよそ徒歩十分で内蔵の多くが存在する中七日町通りに至る。

増田町の内蔵巡りを主に、2泊3日の首都圏増田会主催の、ふるさとツアーに参加、私達従兄4名はマイカーで参加させていただきました。

土蔵造りの店舗が並ぶ「蔵通り」は東京(江戸)では失われてしまったが、増田では江戸時代の面影を残す蔵造りのオンパレードとして今尚当時の輝きを留めている。主に江戸時代の末期・明治・大正・昭和の蔵の町並みで、地主が商業問屋や倉庫業で財をなし、豪商経済の華やいた時代の名残りは、蔵以外にも随所に見ることが出来る。特に蔵通りを少し入った裏小道をさまよい歩めば黒堀に黒松、蔵の庭から眺める彼方には桜の名勝として名高い真人山の山並

み「松林、石垣、水路、巨木桜」の背景を、贅沢に、庭に引き込んで、時が春ならば桜が映えて見事だろうと、思いをよせて、しばし立ちすくんで眺める人もいた。又、蔵通り以外の地区でも、一般の民家の蔵持ちを覗けば規模は小さいが、やはり江戸時代の豪商の庭を真似たかの如く、風情が色濃く残っているところもあり、増田の繁栄と歴史の重みを感じさせられた。

蔵の見学を終えて午後の見学ツアーは、昭和30年増田町に合併した西成瀬村狙半内地区で、町の奥座敷とも称され、棚田がたなびく狙半内集落を、ざっとかい摘まんで紹介すると、通称森が育む豊かな森林地区で増田の財産区とも呼ばれている。自然環境も山河溪谷と変化に富んで、移行行く季節を堪能させ、又、上畑集落には、市営自慢の豊富な掛け流しの生の湯、さわらび温泉があり、温泉から眺める高根山は、増田では二番目に高い(641メートル)信仰山で大勢の登山者で賑わう。本当に長い日数にわたって市職員の皆様、地元地域の皆様、温泉宿の皆様ありがとうございました。

首都圏増田会に参加して

ヨミテヒーローズ代表

須釜文男さん「八木出身」



首都圏ふるさと会、第29回増田会、開催おめでとう

ございます。そして、ご招待いただきありがとうございます。

私たちのバンドは、8年前に横手地区出身者で首都圏に住む社会人を中心に結成され、毎年、県南地区のふるさと会、高校の同窓会ほかで演奏活動を行っております。毎年ふるさと横手で開催されている、横手音フェスティバルにも参加しております。現在メンバーは25名ほどで、毎月2〜3回の練習を行っております。

各地区のふるさと会に参

加してよく見かける風景として、仲間同士のコミュニケーションがよくとれているなあと思います。十数年ぶりに合う仲間も温かく迎えて、子供の頃の思い出などで会話が盛り上がる風景は、見ているほうも幸せな気分になります。

地元の食材を使用した料理なども懐かしいと思います。年1回の集まりを皆様が楽しみにしているのがよくわかります。

私達のバンドの演奏技術はまだまだ発展途上ですが、お楽しみ頂けたでしょうか。今後も活動が続けていく所存ですので、また機会がありましたら、よろしくお願い致します。

最後になりましたが、お土産に頂きました増田のリンゴジュースは格別でした。メンバーを代表しお礼申し上げます。今後の増田会の

益々のご発展をお祈り申し上げます。また、幹事の皆様、お疲れ様でした。

母と増田の内蔵

越後 英雄さん
【七日町出身】



今年で95歳になる母は増田町七日町で、一衆とい

う小さな食堂をやっていた。子供の頃、食堂の配達先は、蔵のある家々で、よく遊びに行っていた。今では文化財という贅沢な遊び場になった。今回首都圏増田会で「Yokote Heresi」として演奏させていただいた。

横手市・羽後町・東京都内などで息子と同じ年代の彼らから15年先輩達まで幅広い年代の仲間と一緒に演奏活動をしている。

還暦をすでに超えたが、最近では全国でセミナー講師として話をさせていた。故郷増田の内蔵を「勝手に観光大使」となってPRしていきたい。一時は認知症状態で記憶が飛んでいた母に増田町の内蔵の写真を見せたところ、「昔はホタル町と言われたんだよ」と懐かしそうに話し始めたのには驚かされた。佐藤養助商店の漆蔵の完成も大正10年で、母と同じく95年の歴史を刻んでいる。

増田会と民謡

高橋 忠司さん
【蒲ノ下出身】



私は、ほとんど毎年のように増田会に参加しており

ます。物産展での買い物を楽しみで、懐かしい思いで、あれやこれや手に取って見ているうちに、増田の朝市で買い物をしている気分になります。そして、ふる里の話で心が弾み、私の胸の中は、ふる里へタイムスリップした気分になります。

私は増田会で大変貴重な時間をいただき、舞台で尺八や三味線に参加いただいた会員の皆様の前で披露ができることに幸せを感じ、私は習っていてよかったと、心から思います。また、尺八や三味線に合わせて民謡を歌ってくれる方々に深く感謝しております。

私達は素人ですが、ふる里には民謡が不可欠だと思います。まだまだ稽古に励むつもりです。会員の皆様、舞台と一緒に民謡を楽しんでみませんか。出場を待っております。

増田町の出来事

(市報・平成26年10月15日号より)

『第29回国民文化祭 in あきた 2014』

皇太子殿下が増田をご訪問

10月4日から県内で開催されている『第29回国民文化祭・あきた2014』の開会に先立ち、10月3日、皇太子殿下が増田地域をご訪問され、昨年12月27日に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された横手市増田伝統的建造物群保存地区内の中七日町通りで町なみや内蔵などをご覧になりました。

高橋市長は木村市議会議長と旧石田理吉家前で、皇太子殿下をお出迎えし、その後市伝建推進室の職員と蔵の駅などで増田の町なみの歴史や特徴について説明しました。また、増田まちなみ保存会の皆

さんと皇太子殿下の交流の場も設けられました。

皇太子殿下は、10月4日に由利本荘市を訪れた後、秋田市の秋田県立武道館で行われた国民文化祭の開会式にご臨席され、帰路につかれました。

11月3日までの国民文化祭期間中は、中七日町通りを中心に『増田のまちなみと蔵めぐり』と題した町なみの歴史を紹介するイベントが行われました。

今回の皇太子殿下のご訪問は、増田の町なみを広く全国に知らせる機会になりました。



1_ 旧石田理吉家前で地域の人たちにお手を振られる皇太子殿下／2_ 増田まちなみ保存会の皆さんとお話しをされるご様子／3_ 旧石田理吉家前で、皇太子殿下のご訪問を喜ぶ皆さん／4_ (県提供写真) 市伝建推進室の職員が増田観光物産センター『蔵の駅』の内蔵の前で特徴などを説明／5_ 蔵の日で賑わう中七日町通り

元祖さるはんない幻灯



狙半内地区の住民が総出で行った手作りのイベント。2月14日、15日の両日、灯りの道は約10㌔にもおよび、幻想的な光景が訪れた人々を優しく包み込みました。

(市報・平成27年3月1日号より)

三所神社梵天まつり



2月22日、増田梵天まつりが行われ、本梵天5本と小若梵天8本が参加しました。中七日町通りに集まった男衆が梵天を片手で持ち上げたり、あごや額にのせるなどの妙技を披露すると、見物客からは拍手や声援が送られました。その後、梵天の飾りや妙技を競うコンクールを行い、三所神社に五穀豊穡や地域の安全を祈願して奉納されました。

(市報・平成27年3月15日号より)

増田バンドフェス



9月7日、亀田地域センターで増田バンドフェスが開催されました。増田地域にある4つの地域センター運営協議会の合同事業として行われた今回のバンドフェス。「世代を超えて」をテーマに、各地域センターで練習している10団体が個性あふれる演奏を披露し、会場を訪れた観衆を魅了しました。

(市報・平成26年10月1日号より)

秋田盆おどりサミット in 増田



今年で9回目となる秋田盆おどりサミット in 増田が12月14日、増田ふれあいプラザで開催されました。増田盆おどり保存会や青森県黒石市の黒石民謡研究会などが踊りを披露したほか、大仙市中仙地域のドンパン踊り普及部会が基調講演を行い、参加者は盆おどりを通じて伝統文化継承への理解を深めていました。

(市報・平成27年1月1日号より)

名物たらいこぎ競争



毎年恒例となった名物『たらいこぎ競争』が、真人公園さくらまつり開催中の4月29日、公園沼で行われました。たらいこぎ競争には、男女23人が参加。バランスを崩さないように慎重に水をかき分けながら、マラソンにちなんだ42.195㌔先のゴールを目指しました。

うららかな春の日差しの中、多くの見物客が訪れ、参加者に拍手や声援を送りながらイベントを楽しんでいました。

(市報・平成26年5月15日号より)

農業体験交流学習



5月27日、増田高校の実習田で同高校農業科学科の3年生6人が講師を務め、増田小学校の5年生の児童47人があきたこまちの苗を手植えました。

今回の生徒と児童の交流は『ひと粒の種からごはんになるまで』と題して、農業体験から農作物の生命の尊さを学ぶことを目的に増田地域局で企画した事業です。児童たちは、生徒からの「ゆっくり丁寧に植えて」とのアドバイスを受け、田んぼに足を取られながらも、一生懸命に苗を植えていました。

(市報・平成26年6月15日号より)

第29回

2014

首都圏増田会
総会

故郷の味を堪能。



第29回首都圏増田会総会が平成26年11月16日、東上野（御徒町）の「オーラム」を会場に開催されました。

総会には、高橋大横手市長をはじめ市関係者、各方面からの来賓の方々をお迎えし盛大に行われました。総会では、提案された議事・議題は全て可決・承認され、その後、文化庁文化



財部参事官の島田敏男氏を講師にお招きし「伝統的建造物群保存地区制度と増田の町並みの価値について」と題し、講演をいただきました。

そのあとは、大交流会に移り、芋の子汁や地酒など故郷の味を堪能。参加者は、アトラクションや大抽選会で大いに盛り上がりました。



2014年度 第29回首都圏増田会スナップ

広告掲載

お願い — 連絡 —

事務局より

市町村合併後、市当局からの支援金が大幅に削減されてしまいました。つきましては増田会として、やむをえず次のようにいたしました。

過去5年間、会費が未納の会員

総会の案内及び増田会だよりの郵送を中止することにしました。ただし、総会への参加は構いませんので一人でも多くの会員の参加をお待ちしております。皆様のご理解の程をお願い申し上げます。

平成26年度首都圏増田会収支報告

平成26.11.18現在

首都圏増田会の平成26年度の収支決算がまとまりました。内容は下記のとおりです。

【収入の部】		※「比較」欄は予算との比較	
項 目	金額(円)	比 較	説 明
年 会 費	423,710	23,710	手数料差引後
総 会 費	734,000	▲66,000	88 人
横手市補助金	270,000	0	首都圏増田会補助金
前年度繰越金	678,064	0	
預 金 利 子	79	▲21	
諸 収 入	381,000	81,000	総会祝儀、広告収入ほか
合 計	2,486,853	38,689	

【支出の部】		※「比較」欄は予算との比較	
項 目	金額(円)	比 較	説 明
総 会 費	1,092,089	7,911	会場料、宴会費用ほか
会 議 費	200,767	▲767	役員会・3 回
在京ふるさと会	182,000	18,000	在京ふるさと会出席
慶 弔 費	57,200	▲27,200	
広 告 費	60,000	20,000	増田の花火協賛金
通 信 費	96,560	3,440	たより印刷代ほか
事業部活動費	30,000	40,000	役員研修・広報活動費
振込み手数料	2,982	482	送金手数料
事 務 費	10,204	19,796	事務消耗品ほか
積 立 金	0	300,000	30 周年積立金
予 備 費	0	335,664	
合 計	1,731,802	717,326	

収支差引残金 755,051 円は翌年度へ繰越

第30回首都圏増田会総会

■期日 11月15日(日)午前11:30～
■場所 オーラム(昨年と同じ会場です)
住所 東京都台東区東上野 1-26-2
電話 03-5812-1123

会費 8,000 円

※参加者全員が着席できるように準備しております。

募集しています

写真募集 首都圏増田会広報部より

「増田会だより」の表紙に掲載する増田会にふさわしい、郷土の風景、行事、心に残る写真をお持ちの会員は、是非写真の提供をお願いします。

■提出先：広報部長 森泉曜子

広告協賛募集 首都圏増田会総務部より

総会資料に掲載する広告を募集しております。1口(名刺判) 3,000円となります。ご希望される会員は伝票の通信欄にその旨をご記入いただき、会費と一緒に納入してください。

会費の納入はお早めに

事務局より

当会の事業・運営は会員の皆様の会費によって賄われていますが、最近会費の納入が遅れたり、未納となる会員がおられます。健全会計維持のためにも、納入はお早めをお願いします。なお、未納の会員には次回より案内状、増田会だより等の送付は行わないこととします。また、転居された会員をご存じの場合は、横手市まちづくり推進部増田地域課へお知らせください。

■連絡先：秋田県横手市増田町増田字土肥館
173番地 / 電話 0182-45-5510

◆会 費 年額 2,000円

◆納入期限 平成27年10月10日

※払込伝票の通信欄は、会員紹介、増田会に対するご意見などをご自由に記入してください。